

# 那珂川町図書館

## オススの1冊

『地図マニア空想の旅』

今尾 恵介／著 集英社インターナショナル 【448.9 17】

小学生の頃、夏休みの自由研究で、紙のパーツを等高線に合わせて貼り重ね、立体的な日本地図を作った記憶があります。思えば、その頃から私の地図好きは始まっていたのかもしれない。今でも学生時代に使っていた古い地図帳が本棚に並んでいる私にとって、この『地図マニア空想の旅』はとても心惹かれる1冊です。

地図研究家でもある著者は、地形図を「景色が見える地図」であり、「過去の土地の様子を時代ごとにおさめたアーカイブ」とであると言います。植生記号や等高線などで世の中が記号化＝抽象化されることによって、地形図を読み取る際の不要なノイズが除去されると同時に重要なものが強調されるために、景色がはっきりと見えてきます。また、地形図の記号を読むことによって「解凍」してあげると、今では失われてしまったかなり昔の風景にも簡単に触れることができます。

この本には、著者が収集した様々な時代や国の地形図を元にした空想紀行が、国内編と海外編に分けて収録されています。その中で特に印象的だったのは、カナダ「滝へ行かないナイアガラ紀行」。旅行ガイドには決して載ることのないであろう、滝以外の周辺地域を地形図片手に巡る旅です。旅はナイアガラフォールズ駅をスタートし、五大湖航路の一部であるウェランド運河へ向かいます。その途中で見えてくるのは、材木置場や工業地帯、滝の流れを利用して発電をするためのいくつもの発電所や変電所、そしてそれらから伸びる無数の送電線。普通の観光ではあまり見ることのない風景です。

見慣れない外国の地形図に少々悪戦苦闘しながら、本文と地形図を照らし合わせて読み進めていくと、だんだんと地形図がリアリティをもって目に入ってくるような気がしてきます。そして次第に、「この果樹園では何を作っているんだろう」「この博物館はどんな建物なんだろう」と、どんどん想像が膨らんで、何だかワクワクした気持ちになるのです。

本書では他にも、芥川龍之介『トロッコ』の舞台・大正時代の熱海への旅や、イギリス・ローマ古道を歩く旅など、魅力的な空想紀行を読むことができます。目次を開いて訪れてみたい場所があったなら、時間や距離を飛び越えて、想像だけで旅をしてみませんか。きっと新しい発見があるはずですよ。

那珂川町図書館（YELLOW）